

対談 校友会会則改正の狙い

東京大学校友会は昨年7月に会則を改正し、会費規定を新設しました。この背景や狙いについて、藤吉泰晴東大校友会副会長と神澤俊介事務局長に語っていただきました。



校友会のさらなる基盤強化に向けて。

神澤事務局長(以下神澤) 校友会の会則が大幅に改正されました。

藤吉幹事長(以下藤吉) 一昨年(2020年)夏に校友会幹事会の下に会則改正ワーキンググループを設置し、全学同窓組織としての自立、ガバナンス向上に向けた会則の改正案を毎月の会合で討議検討しました。その結果、校友会の目的及び事業に「大学への支援」を明記し、役員会及び代議員会に加えて幹事会も会議として権限を明確化し、さらに、会費規定を新設する等の改正案が策定され、幹事会、役員会の承認を経て昨年7月2日に施行されました。実際の会則には、「東京大学の発展をグローバルに支援することを目的とする。」と記載しました。「卒業後は、なぜか群れない東大生」から「群れて世界と競争しよう」との意識を込めさせていただきました。校友会は2004年、大学の独立法人化に伴って卒業生ネット

ワークの強化のために大学主導で発足した経緯もあり、長年、必要経費約4千万円を大学拠出金や寄附金等に依存してきましたが、今後は各団体会員及び各個人会員から1万円の会費を納入いただき、組織的にも財政的にも自立して行くこととなります。

神澤 校友会の主要な活動としては、会報「東大校友会ニュース」の発行やホームカミングデイの開催(大学との共催)に加え、近年は入学生、就活生等、在学生向けのプログラムに注力し、「大学への支援」を会則改正に先行して展開してきました。

藤吉 大学の独立法人化当時は、「支援イコール寄附」と捉えて反発・警戒する向きもあったため、「大学への支援」を会則に明記することが憚られたようですが、その後10年余り、卒業生ネットワークの強化が進み、校友会の活動も

拡大するのと並行して、本学卒業生/修了生の意識も変化し、東大校友会支援基金への寄附が増える一方、2017年度より募集を始めた大学支援ボランティア(「校友会サポーター」)にも多数の卒業生が登録しています。私自身、卒業以来、大学とは無縁な生活でしたが、2017年春に第1期の校友会サポーターとなり、就活面接演習講座の面接官役を務めたりしているうちに、校友会幹事長をお引き受けするに至りました。今や、大学や在学生のために貢献したいがどう大学にアプローチしたらよいか分からないという卒業生/修了生は非常に多く、校友会の目的や事業に「大学への支援」を明記すべきだという考えを強く持ちました。

神澤 校友会の目的には、当初から「会員の相互親睦・協力」が謳われていますが、これに「大学への支援」が加わったところで、会費の規定が新設されたわけですね。

藤吉 全学同窓組織として、「会員の親睦」と「大学への支援」とが二大目的であり、今後の会費収入は、ホームカミングデイを始めとする会員親睦の活動にも使われますが、校友会の必要経費を賄って大学依存を軽減することはそれ自体が大学への支援に他なりません。会費収入が増えれば増えるほど、大学の拠出金が減ると共に、在学生向けのプログラムも拡充され、さらには、卒業生ネットワーク強化のために大学が開発・提供していくシステムやサービスへの経済的支援も可能になります。従って、300団体を超

組織的、財政的にも 自立していくための一歩です

神澤俊介

東京大学校友会事務局長

かんざわしゅんすけ/1978年東京大学法学部卒。住友銀行、AIGなどの金融業界を経て独立。2012年より東大校友会事務局長、卒業生部門ディレクターを兼務。全日本ベテランテニスの常連でもある。



える団体会員、存命卒業生／修了生約20万人、在学生・教職員約4万名から成る個人会員の皆様が広く会費を納入して下さいれば、大学への大きな支援に直結します。1回きり1万円という会費は、全学同窓組織の会費としては異例に割安ですので、出来るだけ多くの会員の皆様が早期に会費を納入して下さいることを期待しています。

神澤 会費納入のために多様な決済手段を用意しています。団体会員には、銀行振込やクレジットカード決済で納入頂くよう依頼していますが、個人会員である卒業生／修了生、在学生、教職員については、クレジットカード決済、コンビニ決済の両方が出来るように致し、本号会報の郵送先にはゆうちょ銀行の払込用紙も同封しています。会員の方々には、卒業年・学部等の必要最小限の情報をご入力（記載）いただいた上で会費をご納入願えれば幸甚に存じます。

藤吉 校友会幹事会では現在、代議員会の機能を強化するため2022年度会則改正案を討議中です。現在の代議員会は、団体会員から選出された代議員のみで構成され、議決権限もありませんが、これに個人会員から選出された代議員も加え

た上で、役員会に集中している議決権限の一部（例えば、会則改正）を代議員会に移す方向です。そして、個人会員から代議員を選出する際には、代議員就任の資格や代議員を選挙する投票権を会費納入済みの個人会員に限定する、という案が有力化している点も申し添えます。また、会費を納入下さった会員に対しては今後、限定的、優先的なサービスやイベントを順次導入して行く所存です。

「大学支援」「会員の親睦」が 校友会の二大目的。 大学依存の軽減こそが 大学支援に他なりません

藤吉泰晴

東京大学校友会副会長兼幹事長

ふじよし やすはる／1981年東京大学法学部卒。三井物産で食糧食品分野に従事し、その後三井食品代表取締役社長、在任中に、第一期東大校友会サポーターに登録。学生向け模擬面接、キャリア相談など、幅広い就活支援を行った。



東京大学校友会
個人会員(卒業生／修了生)
会費納入決済フォーム



https://paysys.jp/forms?form_code=3564561438583334

お問い合わせ：東京大学校友会事務局
E-mail: utaa.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

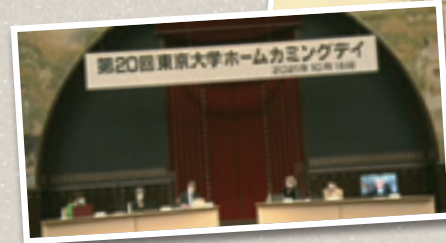
東京大学ホームカミングデイ 2021のご報告&2022のお知らせ

2021年10月16日(土)

第20回東京大学ホームカミングデイのイベントは
ライブ配信とオンライン配信(オンデマンド)で開催しました。

安田講堂で行われた特別フォーラム・午前の部では、冒頭、藤井総長が、今後6年間の基本方針である「UTokyo Compass」について説明しました。その後、総長と藤垣裕子、林香里、石井菜穂子、岩村水樹等4人の理事に加え、ニュ

ーヨークオフィスから大栗博司カブリ機構長がオンラインで参加。岩村理事がモデレーターとなり、東大が目指すべき姿について一同で語り合いました。報告の詳細はウェブサイトをご覧ください。



詳細はこちらから

*2022年のホームカミングデイは10月15日(土)に開催予定です。詳細が決まり次第ウェブサイトでご案内いたします。